

文学館だより



令和 7年 7月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 貴 日 高 第111号

= 若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year =

企画展『牧水 43年の生涯』 始まります

7月5日～

第1期「日向若山家の歴史」 所沢出身の健海が坪谷に若山医院を開業

牧水生誕 140 年記念企画展「牧水 43 年の生涯」がいよいよスタートします。およそ 1 年をかけ 3 期仕立てで進めてまいります。

今回、第 1 期は所沢出身の祖父健海がなぜ坪谷の地を選び、移住を決断し、若山医院開業となったのかをひもといていきます。健海が坪谷の地を選んでいなかったら・・・牧水生誕から大きく歴史が変わってしまいます。繁（牧水）誕生以前の祖父健海にスポットを当てた「日向若山家の歴史」をどうぞお楽しみください。

健海を辿るために所沢の若山家に戻ることから始まりました。健海の父（4 代目）は、健海が 1 歳の時に他界。間もなくして母は他に嫁ぐことになります。健海は祖父母に育てられますが、幼いため、健海の叔母に養子を迎えて家を継がせることになりました（5 代目）。健海が所沢に留まらなかったのは少なからずこのことも影響しているのかもしれないと想像を巡らせてしまいます。



大正時代の牧水生家

他にも健海と言えば、「種痘人名録」が有名です。県内初と言われる種痘（天然痘予防接種）を行い、初めに長男立蔵に接種したことが「種痘人名録」に記載されています。常時、第 1 展示室で表紙は目にすることができますが、今回はより詳しく展示いたします。（※種痘は宮崎市の医師福島退庵と共同で行われました。）

ここ生誕地だからこそお見せできる資料を今回も準備しています。どうぞお立ち寄りいただき、存分にお楽しみください。



『若山牧水全歌集』 伊藤一彦編

いよいよ今月刊行!!



恋、旅、酒……

天地（あめつち）と魂の奥処が共振する歌の真髄。
万物と親和した“未来の人”。

若山牧水ルネサンス、ここに始まる

角川文化振興
財団作成チラシ
引用

牧水の高弟、大悟法利雄氏編集『若山牧水全歌集』が刊行されたのが遡ること昭和 50 年。それから 50 年の時を超えてついに伊藤一彦先生編集『若山牧水全歌集』が刊行の時を迎えました。

全十五歌集に、新出歌を含む未収載歌を加えた約 9,600 首を収録。更に、これまでに発表された選りすぐりの牧水論 12 本を掲載。はやる気持ちを抑え、刊行の日を待ち望んでいます。

文学館でも取り扱いいたします。どうぞお立ち寄りください。
遠方の方には、代金と送料をご負担の上お届けいたします。
ご連絡お待ちしております。

伊藤先生大ファンの方々、短歌愛好者の方々が今年も集まりました。25名が自作短歌を持ち寄り、全員で短歌の世界を味わいます。伊藤先生からアドバイスがあった歌を紹介します。



歳いったな十年ぶりに会ういとおはぎで接待祖母と重ねられ

- 「歳いったな」の表現がおもしろい
- 歌には終止形が必要・・・「祖母と重ねらる」（文語）か「祖母と重ねられる」（口語）がよい

いつの間に草丈のびて根をはって畑への無沙汰詫びながら抜く

- 作者の優しさが感じられる
- 「いつの間にか」・・・字余りになっても「か」があった方がよい

夕陽浴び鉄砲ユリの影まさに跳ねるカモシカシャッターを切る

- 他の人が考えない発想で独特な歌
- カタカナが続くのは避ける・・・「に」を入れるか、スペースを空けるか

こんな歌もありました。印象に残った2首です。

「へのかっぱ、死んでたまるか」を諦めて諦めさせた八十五日
朝もやの道の駅にはカタカタと採れたて野菜の台車の音か

伊藤先生より

- 構えないで作る
- 何かもらったら歌で返す

歌でお返し・・・
ステキですね
もらってみたいし
贈ってみたいし



牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

だんだんにからだちぢまり大ぞらの星も窓より降り来るごとし

だんだんに からだちぢまり おおぞらの ほしもまどより ふりくるごとし

伊藤一彦先生の『若山牧水の百首』引用。

私が記憶するかぎり誰も取りあげたことがない一首である。ユニークさをもつ秀歌と思う。上二句の「だんだんにからだちぢまり」の主語は作者だろうか。それとも「大ぞらの星」だろうか。前者だと大空の下で自分の体の小ささを感じている表現になる。後者だと星たちがだんだんに体を縮め近づいてきて窓から入ろうとしている歌になる。どちらにしても面白い。独特の身体感覚と宇宙感覚である。「夜の窓」四首中の作。牧水はいつでも窓をあけるのが好きだった。大正五年の作。



詠まれた季節はもう少し後のようだが、身体、星くずの小ささと対照的に大空の壮大さが飛び込んできた。夏が続く中、夜くらい空を眺めたいと思い、この1首を選んだ。また、誰も取り上げたことがない歌とあったので、一人でも目に留まればと思ったところである。

若山牧水生誕140年記念事業が続きます

8/9～10(土～日) 第15回牧水・短歌甲子園

9/16(火)「ゆかりの地めぐり」「記念シンポジウム」「交流会」

9/17(水)第75回牧水祭

詳細は若山牧水ホームページをご覧ください